

## 静岡市附近の小気候調査から

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯田, 孝 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00005930">https://doi.org/10.14945/00005930</a>

# 静岡市附近の小気候調査から

飯田 孝

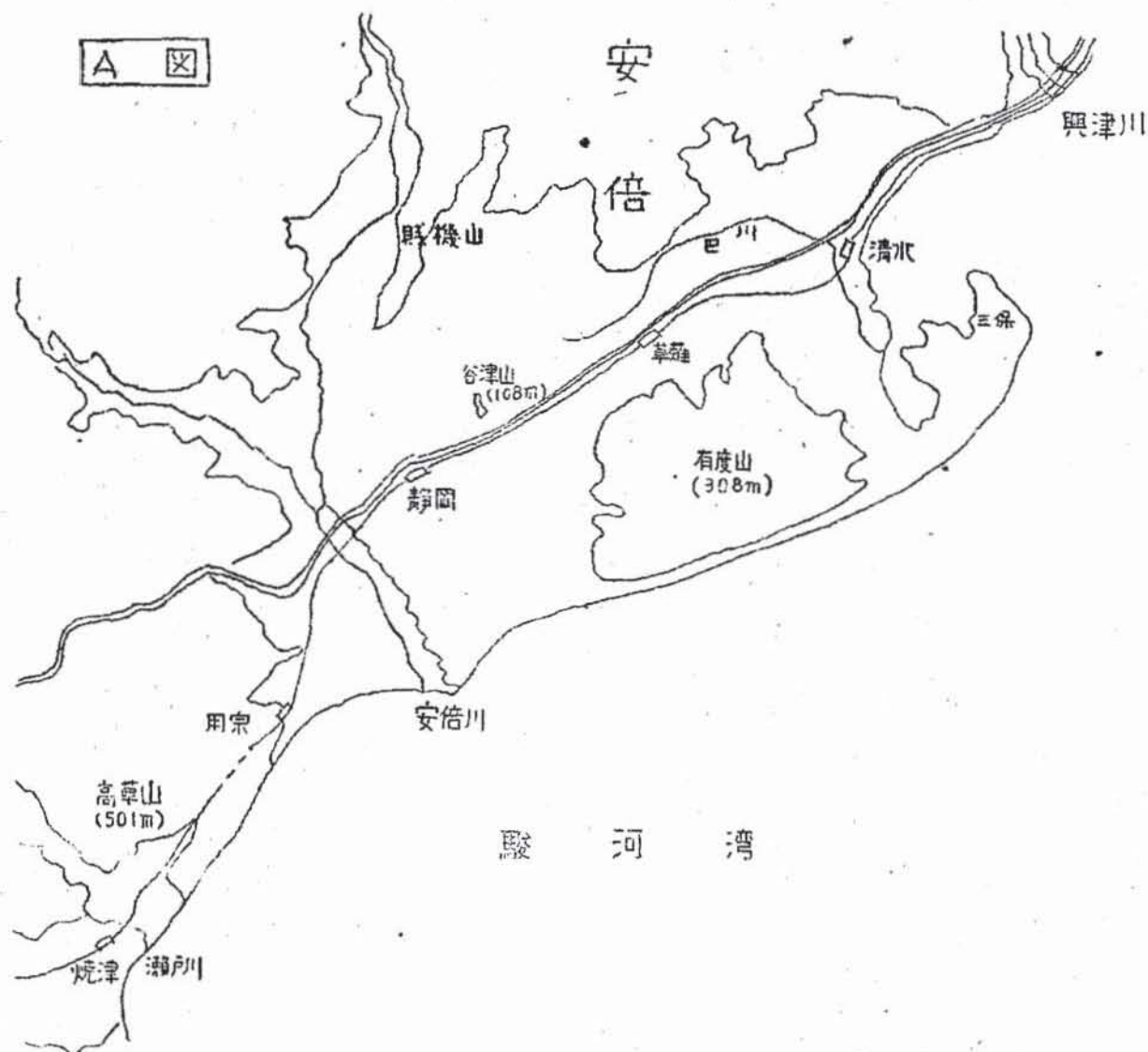
静岡市附近の小気候調査のため資料を収集したのでその状況について取敢えず報告しておく。この調査には約三週間の日数を要した。最初に観測所の調査から始め、先ず、学校を主体として行い、静岡市清水市安倍郡中の80校を目標としたが現場についてみると、その中気象観測を現在実施しているのは15校であり、測器があつても観測していない所がかなり見受けられたし、又ある期間だけ観測したことがある所もあり、小気候調査のための有効資料を得たのは僅か3校に過ぎなかつた。観測している学校と云つても皆同じ方法で観測しているのではなく、観測時刻もまちまちであつたり、欠測の多いことや計測の間違いなどの理由で有効資料とする事はできないのである。そこで目標を今度は他に転換し、農業試験場鉄道の保線区・鐘紡・日東紡建設省関係消防署などで実施していることを見つけ出したので、それらについて調査したところ、これ等からはかなり信頼のおける資料を得ることができたのである。

百葉箱は白ペンキ塗の木箱で大いさの規格は間口90cm、奥行80cm、高さ120cm位で脚の高さは約1m位である。これに対しては規格に沿つているところは少く大部分が小さい百葉箱であつた。設置場所は大部分が各観測地内の日当りの良い、透風のよい附近を代表する位置にあつたがもつと適當なところに設置した方が好ましい所もあつた。観測している気象要素は気温湿度雨量雲量風向風速積量などがあるけれど集収した資料を整理した結果、気温と雨量の分布図を作り得るだけで、あとの湿度・風向風速などについては割愛せざるを得なかつた。なお小学校で季節学の小気候的研究を動物植物に関して行つている所があつた。

先づ気温について考えてみよう。自分も当校の観測員として観測にあたつており静岡市附近の気象全般の状態が如何ようになつているか、気候状態はどうかと云うことについていさゝか関心を有するものである。静岡市附近ではどこが温暖か。どこが低温か。その分布はどうか。如何

(6)

なる区分が考えられるか。という争の調査について資料の関係から昭和27年及び28年のものを採つた。平均気温は最高最低温度計で読取つた毎日の最高気温と最低気温の相加平均によるものと、1日3回(6時・14時・22時の観測の平均値によるもの)とを資料とした。A図は静岡市附近の地



図である。区域は静岡市清水市安倍郡に亘つている。附近一帯は図から大体了解されとおりで、南は駿河湾に面し、北方から西方にかけて約300mから500mの山が連なり、また静岡市と清水市の間には海に沿うて有度山(308m)があり、その他静岡市内には谷津山(108m)、八幡山などの丘陵がある。静岡市の西方には安倍川が流れ、清水市内には巴川が貫流しており附近一帯は、海拔約10m前後の沖積平野である。これ等の山川海などが小気候にどんなに影響するかをみて行きたい。こゝでは海拔高度が低いので海面修正をする必要はない。気温は地形的影響が考えられ、



その地に吹き込んでくる気流に左右されることが大きい。夏季には南西風が吹き込むと温度が昇つて蒸し暑いが冬季は北西風が吹き温度が降つて薄寒いとゆうように温度が風向によつて支配される。(有度山南側では一年中霜を見ない所があるという話を聞いた。)

次に都市度の影響 市内の燃焼熱等、即ち都市化された地域及び農村的色彩の濃厚なる地域の分布状態と小気候との関係などを詳しく研究してみたい。同燃焼熱の影響によるものは、日東紡鐘紡などに於いて顕著に現れた。次に雨量であるが雨量計は口径20cmの円筒の基準面積に堆積したものとしての高さをもつて雨量を表わしている。この他の観測器に自記雨量計雨量口ポット(雨が降ると自動的に雨量を発信する観測器)最も進歩したのに台風の進路や雨量計のない深山の雨をキャッチできる気象用レーダーがある。調査した観測所は一ヶ所自記雨量計で行つて居る他は口径20cmの雨量計を使用していた。観測時は普通1日1回10時に測定し翌日の10時迄のものをその日の雨量と見做すことになつて居る(昭和28年からは9時に改正された)。資料は観測期間の関係から昭和26-27-28年のものを利用し得ることが出来た。これからは年雨量、各季節の雨量状態を知ろうとするものである。雨量も気温と同じく風による影響がかなり顕著に現われてくるものと思われるから、その風の影響によつてどのような分布図が描かれるかをみてゆきたい。また雨量は地域によつて非常に異なることが各資料を収集してみてもつきりわがした。

静岡市附近を収集した記録からみると観測の最も古いのは建設省の田町雨量観測所で昭和9年以來で過去20ヶ年の資料からみて雨量の最も多い年は昭和16年の3359.7mmで最多月雨量は昭和20年10月の828.2mm、最多月雨量は昭和13年6月25日の227.3mm、最少年雨量は昭和22年の1467.3mmであり、雨量の年最多月降水日数は昭和16年の145日、年最少降水日数は58日でこれをもみても明瞭に解るのである。

今後は観測網をもつと密にして学校などの協力を得て充分な調査をしたいと思つて居る。貴重な資料を提供された各観測所に深く感謝致します。尚静岡大学地学研究部では昭和28年7月から一応観測設備も整つ

(8)

たので2年金沢郁江・八木志津子が主として観測を行つて貴重な資料を残し、今年からは3年押山靖久・山田和人・2年望月誠・1年岡崎宏の各諸氏が加つて観測陣が強化された。